

【語句説明】

- ※1 CTL：Cytotoxic T Lymphocyte（細胞傷害性T細胞）。リンパ球のうちのT細胞の一種。細胞表面のT細胞受容体を通じて、樹状細胞等の抗原提示細胞から提示された異物を特異的に認識し、同じくその異物を表面上に提示しているウイルス感染細胞やがん細胞を認識し、細胞傷害物質のサイトカインであるパーフォリンやグランザイムなどを放出したりすることによって、殺傷することができます。以前はキラーT細胞とも呼ばれていました。

- ※2 セルプロセッシングセンター（CPC）：細胞培養加工施設。細胞治療、再生医療に用いるヒト細胞・組織の調製に必要な機器と、製造工程の管理及び環境をモニタリングするためのシステムを備え、再生医療等安全性確保法における細胞培養加工施設の構造設備基準に適合した管理運営が行われています。

- ※3 EB ウイルス：エプスタイン・バール・ウイルス。EB ウイルスはヘルペスウイルスに属し、ほとんどの人が感染しており、その一部がヒトに腫瘍を発生させます。1964年にEpsteinとBarrによって発見されたヒトの腫瘍から見つかった最初のウイルスです。

ブライトパス・バイオ株式会社について

手術、放射線療法、化学療法に次ぐ、がんの「第4の治療法」としてがん治療の革新をもたらしつつある「がん免疫療法」の開発を行う創薬ベンチャーです。国内と米国で臨床試験を実施中のがんペプチドワクチンをもつほか、抗原特異的T細胞をiPS化し再生させる新たなT細胞療法、また世界的に新規性の高いアプローチであるネオアンチゲン（腫瘍特異的遺伝子変異抗原）に関わる新薬を開発しています。